



津小だより

〒959-4402 阿賀町津川3234

R5.12.1 No.9

「遠野物語」から「麒麟山お鶴と蔦丸伝説」へ

校長 高松 豊

今年は少し短い秋でしたが、紅葉を眺めながら妻と二人で岩手県の遠野を旅しました。民俗学者・柳田國男の『遠野物語』で知られる岩手県遠野市は、カップや座敷わらしなどにまつわる言い伝えが多く残る「民話の里」です。のどかな里山を訪ね、現実と非現実が交錯する神秘的な世界を体験することができました。遠野のカップ伝説に刺激され、12月の全校朝会では、麒麟山に伝わる「お鶴と蔦丸」の話をしました。

阿賀野川と常浪川の出合うところに、麒麟山がそびえています。麒麟山には津川城があり、城の石がきが陰しく、狐も通れないというので狐戻し城ともいわれていました。

むかし、津川城の殿様が病気になり、医者の手当てでもよくなりませんでした。そこで、山のふもとの温泉の湯をくんで湯治をすることになり、湯を運ぶ役を、若い蔦丸に命じました。

蔦丸は毎日、山の上のお城まで、せっせとお湯を運びました。殿様は湯治のおかげで、病気がだんだんよくなりました。ある日のことです。蔦丸はお湯をくみに来たお鶴という娘に会いました。お鶴も母の病気をなおすために毎日、お湯をくんでいたのです。

二人は仲よくなり恋仲になりました。そのため蔦丸の帰りも遅れがちとなり人々のうわさになりました。これを知った重臣たちは怒って蔦丸を頂上ちかくの石牢にとじこめてしまいました。お鶴はお湯くみ場で蔦丸を待っていても、会えません。かわりにお湯くみに来た者から、蔦丸が石牢にとじこめられていることを知らされ悲しみました。お鶴は蔦丸を助けようと岩場をよじのぼり、石牢に近づきましたが、あとひと息というところで岩がくずれ、岩石とともに落ちて死んでしまいました。石牢で、お鶴の悲鳴を聞いた蔦丸は、「お鶴が死んだ。もう生きる望みもない。」といって石牢から身をおどらせ、お鶴のあとを追って死にました。

二人の悲しい恋に同情した常浪川の水神は怒って、その夜、大水をおこしました。常浪川の流れは一晩のうちにかわり、わずかに川底が沼となって残りました。

麒麟山登り口の右側にある沼は「お鶴ヶ沼」といい、二人の悲しい物語を伝えています。

(参考文献:阿賀野川河川事務所「阿賀野川のむかし話」)

*阿賀町には、「狐火伝説」だけでなく、悲しい話があることを子どもたちに紹介しました。



遠野のカッパ淵に住むというカッパを捕獲すると遠野市観光協会から一千万円の賞金がもらえるというので、許可証を購入し挑戦しました。釣りは得意なので、キュウリを付けた竿でカッパ捕獲を試みましたが、短時間では捕獲できませんでした。またいつか一千万円ゲットに挑戦したいと思います。

【阿賀学】未来学 6年生 阿賀町子ども未来フォーラム！ （小・中・高校の連携）



11月20日に阿賀町子ども未来フォーラムが行われました。1部では6年生がふるさと学習の成果を発表し、2部では未来の阿賀町のために自分たちができることを話し合いました。



【学習発表会】 2年生・3年生・4年生・5年生の発表会がありました！



〈3年生 理科〉



〈5年生 阿賀学〉



〈2年生 生活科〉



〈4年生 総合〉

11月8日に3・5年生、29日に2・4年生の学習発表会が行われました。3年生は理科の「音の伝わり方：糸電話」5年生は阿賀学の「雪椿学習」2年生は生活科の「たんけんクイズ」、4年生は総合の「福祉体験と歌」の発表をしました。どの学年も日頃の学習の成果をしっかりと発表することができました。1・6年生は、12月6日に発表をする予定です。是非お越しください。

【阿賀学】観光学3年生 阿賀野川ライン下り体験！



11月14日に3年生は、阿賀野川ライン下り体験をしました。紅葉が深まった秋晴れの中、阿賀町の豪華観光客船「イザベラバード号」に乗りました。道の駅の駅長であり、船長さんでもある林さんの楽しいトークを聞きながら川下りを楽しみました。

【スキーマの準備】 リフト乗降体験！



1・2年生が、津川小学校の体育館でリフト体験をしました。この体験を生かして、3学期のスキー教室でもリフトに乗ってゲレンデを楽しく滑り降りたいです。スキー場関係者の皆様ありがとうございました。